

情報工学専修における審査について

情報工学専修におけるグループについて

情報工学専修では、研究分野について 3 つのグループを構成し、各グループで審査を行います。各グループが網羅する分野は次の通りです。

- C グループ Computer Science
 - ソフト／ハードウェア／アプリケーション
 - ネットワーク
 - アーキテクチャ／計算制御
 - 人工知能
- N グループ Communication Network
 - 変復調・符号化
 - 無線・光通信網および方式
 - クラウドコンピューティング
 - センサネットワーク／スマートコミュニティ
 - 高度道路交通システム
- M グループ interactive Media
 - 多次元信号処理
 - 機械学習・パターン認識
 - バーチャルリアリティ
 - コンピュータグラフィクス
 - コンピュータビジョン
 - インタラクション

修士の審査プロセスについて

各学年で以下のプロセスがあります。

- 修士 1 年
 - 課題研究発表：同一会場の発表を全て聴講しアンケートをして発表者にフィードバック
- 修士 2 年
 - 中間発表：同様に聴講してフィードバック
 - 最終発表：論文執筆活動を促すため早めに開催、修論内容について発表
 - 論文審査：最終発表前に論文を教員間で回覧
 - 最終発表予備：修論内容について発表、全員の業績リストを回覧

修論発表チャンスは最終発表および最終発表予備の 2 回ありますが、特段の理由なく発表審査会予備に及ばないように、研究・論文発表スケジュールを決めておくこと。

修士卒業条件について

修士卒業時に次の条件が必要です。

- 所定の単位を取得していること
- 論文を執筆・投稿し発表もしくは公開されていること

修士の審査スケジュールについて

おおよそ次のスケジュールに従います。

- 4月入学修士1年
 - 11月 課題研究発表
- 4月入学修士2年
 - 5月 中間発表
 - 12月 最終発表
 - 2月 最終発表予備
- 9月入学修士1年
 - 5月課題研究発表
- 9月入学修士2年
 - 11月中間発表
 - 6月最終発表
 - 8月最終発表予備

早期履修について

原則として博士課程へ進学する学生に限定し、業績に応じて以下の早期履修を認めることがあります。

- 修士を1.5年で修了する場合
 - 修士1年課題研究発表、修士2年中間発表は通常スケジュールで行う
 - 修士2年最終発表を半年早める
- 修士を1年で修了する場合（厳しい業績審査を行います）
 - 修士1年課題研究発表は通常スケジュール
 - 専修内審査の後、入学後半年後から特別研究第一の履修を行う

博士審査におけるCS方式について

情報工学専修におけるCS方式による博士審査プロセスについて

情報工学専修は、スマートメディア工学専修、コンピュータ科学専修の二つの専修が融合して誕生しました。各専修で用いていた博士審査過程が異なったため、特にコンピュータ科学専修が用いていた博士審査プロセスをCS方式として区別し、両方の方式を並行して運用す

ることに致しました。情報工学専修におけるCS方式による博士学位取得審査は以下の手順で進めますので、ご了解を頂きたくよろしくお願い申し上げます。なお、スマートメディア工学専修の審査プロセスは、慶應義塾大学大学院における一般的な審査と同等の審査プロセスとなります。

CS方式の手順について

- 予備審査会の開催
 - 事前に主査副査を決定し、専修内共有フォルダにて書類を回覧可能とする
 - この時点で論文誌2本（内1本は条件付き採録でも構わない）、査読付き国際会議発表1件もしくは英語論文誌1本の業績を必要とする
 - この時点では必ずしも学位論文の提出は求められないが、構成等は議論できることが望ましい
 - 予備審査会では、専修内報告および専攻における受理申請を行ってもよいかを審議する。認められない場合は、再度予備審査会を開催し審議する
 - 専修内での博士審査開始の宣言
 - 業績および受理申請に必要な書類もしくはそれに相当する内容を回覧もしくは閲覧可能とする
 - 専攻教員会議に対する博士審査受理申請
 - 予備審査会で審査を進めてよい場合に、必要書類を提出して申請する
 - 通常2週間程度前に書類提出の締め切りが設けられる
 - 公聴会および最終審査会の開催
 - 受理申請が通過した場合に開催し、最終審査を行う
 - この時点で採択済論文誌2本、査読付き国際会議発表1件もしくは英語論文誌1本の業績を必要とする
 - 公聴会と最終審査会は併催してよい
 - 公聴会では博士取得に相応しいかどうかを審議する
 - 専攻教員会議での審査報告
 - 通常2週間前程度に書類および学位論文の製本3冊の提出締め切りがある
- 以上となります。

博士審査における超一流論文採択に関する優遇制度について

情報工学では超一流と呼ばれる極めて採択率の低い論文誌・国際会議が存在します。特に超一流国際会議は海外においても論文誌よりも重要視され、重要な業績として認められることが多いという事実があります。これに倣い、修士における発表業績も含めて、別途定める超一流国際会議・論文誌に採択された場合、以下の特例を認めます。

- 超一流論文誌に採択された場合、本来2本必要な論文誌業績について、1本でも認められる場合がある

- 超一流国際会議に採択された場合、これを論文誌 1 本とみなす場合がある
なお、目安として Google Scholar h5 index が 40 以上で、かつ、専修教員の合議をもって認められた論文誌・国際会議が該当します。該当リストは毎年更新されています。